

## 第19回炉物理部会総会の報告

1. 日 時 2003年3月28日(金) 12:00-13:00
2. 場 所 アルカス佐世保2F 楽屋203(H会場)
3. 議 事

### (1) 平成14年度活動報告

#### a. 平成14年度決算報告及び平成15年度予算案(三澤委員)

平成14年度の決算報告及び平成15年度の部会予算案が提示され、賛成多数にて可決された。

14年度の決算では、経常予算の収支が赤字になり、夏期セミナー等の雑収入が期待できないと「炉物理の研究」等の会報発行も難しい状況になるとの報告があった。また、古橋基金及びPHYSOR96からの寄付等の収入は、特別予算枠として、事務局からの指示により平成17年度までに使い切ることになっていることが報告された。そこで、経常予算の実状と今後の活動資金を考慮して、増収の方法、支出予算の合理化等の意見が求められた(資料配付及び部会報を参照)。

#### b. 平成14年度編集活動報告(山本(章)委員)

「炉物理の研究」を2回発行した。最新号は、「並列計算」の特集であり、4月上旬に発行予定であることが報告された。

#### c. 平成14年度学術研究交流活動報告(小原委員/竹田部会長)

秋の学会では、核励起レーザーの特別セッションを開催した。春の大会では、当初韓国原子力学会(KNS)との日韓合同セッションとして計画していた2002年炉物理部会主催国際セミナーを、諸般の事情から炉物理・核データ合同セッションに変更し、企画した。また、今後の日韓協力について、日韓合同セッションを年1回交互に開催することで検討することが報告された。

#### d. 平成15年度運営委員選出(竹田部会長)

大杉部会長、島津副部会長(セミナー小委員兼務)を始めとする、新年度運営委員候補案が紹介され、新規委員及び継続委員ともに賛成多数で承認された。新規に選出された委員は、部会長、副部会長の他、辻庶務幹事(セミナー小委員兼務)、中島財務小委員、青木編集小委員、宇根崎学術研究交流小委員、名内学生・若手小委員の計7名(資料配布)。

( 2 ) 企画委員会報告 ( 山根委員 )

これまでの継続として、学会申し込みのオンライン受付を 14 年度秋から開始し継続中であること、部会の活性化について審議していること、学会の規定の見直し作業が継続して行われていることの報告があった。また、岡嶋委員より、予算 WG での審議について報告があり、学会の予算が逼迫している状況、15 年度から部会補助金を削減し、且つ各部会から供託金を徴収することなどが報告された ( 資料配付 )。

( 3 ) 編集委員会報告 ( 山本(敏)委員 )

平成 15 年度には炉物理関係の 7 名の編集委員の内、3 名の委員が交代することが報告された。運営委員である山本委員も 6 月で任期を満了することから、7 月からは宇根崎委員が就任する。

( 4 ) 平成 15 年度の活動について

a . 平成 15 年度予算案 ( 三澤委員 )

経常予算の収入では、学会からの配付金が 246,000 円へ削減されることによる減収、支出では会報印刷費の若干の削減及びセミナー補助金を削減 ( ただし、特別予算からセミナー事業費として削減分を充当 ) した予算案が示された。本予算案は、賛成多数で承認された ( 資料配布 )。

b . 2003 年夏期セミナーについて ( 大杉委員 )

来る 7 月 28 日 - 30 日、札幌市定山溪温泉の「定山溪ビューホテル」で 2003 年夏期セミナーを開催するべく準備中であるとの報告があった。セミナーのテーマは「炉物理の数値解析」及び「炉物理トピックス」とすること、スケジュールの詳細案について紹介があった ( 資料配布 )。

c . 部会 HP について ( 外池委員 )

部会 HP の更新を積極的に行うとともに、炉物理の研究の電子化配布等を検討することが述べられた。

d . 平成 15 年度編集活動案 ( 奥村委員 )

これまで、部会報は慣例的に年 2 回発行してきたが、部会報の印刷費用と郵送費用が部会予算の大部分を占めており、今年度予算案では、年 1 回の発行になるかもしれ

ない。本年度は、製本版の発送も行うが、将来的には電子化配布が必要である。部会報の電子化への対応として、炉物理部会ホームページに部会報の目次ページを置き、記事毎に電子化したアクロバット文書(pdf ファイル)を選択的にダウンロードできるようにすることを考えている。

e . 平成 15 年度学術研究交流活動案 (石川委員)

昨今の原子力界における停滞状況を考慮して、核データ部会との交流促進を積極的に進めていく計画が紹介された。その一貫として、秋の大会において「炉物理・核データ部会合同企画セッション」としてパネルディスカッション(2時間枠)を企画し、炉心設計等の解析手法、核データの使用方法等に関する「標準化」へ向けた端緒になることを期待する旨が紹介された。「標準化」へ向けた行動については、既にその方向で進んでいる専門研究会等があるので、相互に調整を図る必要がある旨の発言があった。

(5) 部会懇親会について(巽委員)

恒例の懇親会を当日 6:30 より「十徳や 佐世保店」で開催することが通知された。なお、韓国からのゲストの参加については、会費を無料とすることが了承された。

(6) その他

a . 加速器駆動炉の用語の提案(岩崎氏)

炉物理研究委員会の加速器駆動未臨界炉ワーキングパーティーにおいて検討されてきた、未臨界に関する炉物理量の用語について、意見が求められた(資料配付)。

b . 運営委員への連絡について

部会に対する要望、意見を運営委員へ連絡するために、運営委員のメールアドレスを公開して欲しい旨の要望があった。大杉委員より、要望に応えたい旨の発言があった。

以上

平成15年度 炉物理部会 運営委員 (敬称略)

(任期)	氏名 (所属)
部会長 (1年)	大杉 俊隆 (サイクル機構)
副部会長 (1年)	島津 洋一郎 (北海道大学)
庶務幹事 (1年)	岡嶋 成晃 (日本原子力研究所)
庶務幹事 (2年)	辻 雅司 (北海道大学)
幹事 (学会企画委員)	島津 洋一郎 (北海道大学)
幹事 (学会編集委員)	山本 敏久 (大阪大学) 宇根崎 博信 (京大炉)(7月から)
幹事 (学会炉物理委員会委員長)	中川 正幸 (日本原子力発電(株))
財務小委員会 (1年)	北村 康則 (名古屋大学)
財務小委員会 (2年)	中島 健 (京大炉)
編集小委員会 (1年)	奥村 啓介 (日本原子力研究所)
編集小委員会 (2年)	青木 繁明 (三菱重工業)
編集小委員会 (部会 HP 担当)	外池 幸太郎 (日本原子力研究所)
セミナー小委員会 (1年)	島津 洋一郎 (北海道大学)
セミナー小委員会 (1年)	辻 雅司 (北海道大学)
学術研究交流小委員会 (1年)	石川 眞 (サイクル機構)
学術研究交流小委員会 (2年)	宇根崎 博信 (京大炉)
学生・若手小委員会 (1年)	巽 雅洋 (原子燃料工業)
学生・若手小委員会 (2年)	名内 泰志 (電力中央研究所)